カンボジア: アニミズムに則ったエコツーリズムによる自然と文化の保護



ヴィラチェイ国立公園(VNP)の中にあり、カンボジアとラオスの境界となっている山岳の神霊的な意味を持つ地形について説明するレンジャー

国立公園の概要

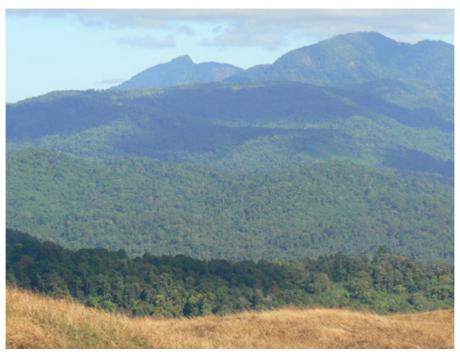
山岳地帯に広がるヴィラチェイ国立公園(VNP)は、カンボジア最大の国立公園である。極北東部のストゥントレン州(Stung Treng)とラタナキリ州(Ratanakiri)に属し、希少な動植物が生息する。緩衝地帯では、ブラオ(Brao)やクルン(Kreung)、カヴェット(Kavet)など古くから高地に住んでいる民族が非常に多数のグループを形成して生活している。こうした人々は、公園内で、釣りをしたり、野生のブタなどの絶滅が危惧されていない種を狩猟したり、非木材森林産品を収集したりすることが法的に許されている。最高峰の山々は彼らにとって「精霊の山々」である。こうした山々をはじめとする自然の聖地に関する精霊民話は多数で、その詳細は村落や民族によって異なる。

生態と生物多様性

VNP は、高地サバンナ、半常緑低地、山岳林、竹藪、混合落葉林から成る。公園の大部分は標高 400 メートル以上に位置し、神聖なハリン・ハラン山の頂は標高 1,475 メートルである。アジアゾウ、ウンピョウ(Neofelis nebulosa)、ガウル(Bos gaurus)、そして絶滅が危惧されるアカアシドゥクラングール(Pygathrix nemaeus)など、さまざまな霊長目種などの野生動物が生息する。現地では、既に絶滅したと記録されている種も存在するという噂まである。



聖地にトレッキングに行く前にメラ山の精霊に祈りを捧げる。米の酒を飲むのが村の生活の重要な習慣である。精霊の 怒りを鎮めるために一匹の鶏が捧げられた。



ハリン・ハラン(Haling-Halang):ラタナキリで最大の神霊性を持つ山

脅威

現地の生態系にとって最大の脅威は、政府の政策に基づいて経済的土地利権が販売され、森林減少と土地の占有が加速することである。こうした土地はゴムやカシューナッツ栽培のための植林地となる。利権の取引が急速に広まり、カンボジアに残る野生地と精霊文化に大きな影響がでている。また、都市部への電力供給のために、この地域で進んでいる水力発電開発の影響で、河川は汚水が停滞して溜まった水たまりとなっている。この背景には、この地域の若い住民が先祖代々受け継がれてきた伝統を忘れ、現代的な生活スタイルに憧れている傾向がある。実際、一部の若者は、自分たちの伝統である精霊信仰をすべて避けているように見受けられる。

管理者

山は、干ばつ時には雨を降らせ、家族の病気を治し、さらには収監されている人々を釈放することまでできる強大な神々が住む場所と考えられている。緩衝地帯で生活しているブラオ民族は、ヴィラチェイの聖なる山々の精霊に恐れを抱いている。特にハリン・ハランは彼らにとって特別な存在である。この山は、人間の願いを叶える代償として、時に、人間の生贄を求める。この山では、狩猟および木材伐採は一切禁じられている。訪問者がその土地の精霊に祈りを捧げなければならない場所もある。竹を収集したい者は、現地の「魔法師」に相談しなければならず、相談を受けた「魔法師」は、竹を収集してよい量とそのための生贄について精霊に伺いを立てる。昔、「魔法師」に相談せずにハリン・ハランから竹を伐採したブラオの青年が竹を切っている時、とがった破片が足を貫き、命を落とす寸前の怪我をしたという逸話がある。こうしたアニミズムは、さまざまな場所で見られ、間接的に野生生物の保護に寄与している。

タンプアン族の Do Yok 氏は、バンルン郊外の聖なるヤクロム(Yeak Lom)湖の近くにある大木の切り株の話を紹介した。

「あそこに伐採された木が見えますか?少数民族が切ったのです。これが聖なる湖の精 霊の怒りに触れ、木を切った者たちの村の住民数人が命を落としました。そして村の全住 民がこの地域を離れなければならなくなりました。今でも、公園の中ではこの民族の言語 を話してはなりません。話したものは、病にかかり、すぐに亡くなります。」

Do Yok 氏によると、この木を切ったタンプアンの住民は、ベトナム人の買い手に迫られて木を切った。こうした公園外部で生活し、この地が特に生態系豊かであることを理解していない外部の力が、深刻な負の影響をもたらす。

- 出典:「Animism in Cambodia: Bioregionalism in Practice」(The Trumpeter, Vol 27 No 1 (2011) 8-22

Gregory McCann 著

ビジョン

公園の文化遺産、自然遺産の保存は今からでも間に合う。緩衝地帯コミュニティの連合を設立すればメリットが得られるだろう。こうしたコミュニティの住民は、アニミズムの伝統を放棄せずに、ツアーガイドや観光客受け入れ家庭、農業従事者、漁師、その他現代的な職業によって生計を立てている。年長者から若い世代の文化間の交流を促し、異なる部族間の交流によってこれを補強することが必要である。若い世代はスクーターを運転し、携帯電話で会話し、街で働き、さらに彼らの豊かなアニミズムの伝統を誇ることができる。

行動

草の根の取組みが行われている。ハリン・ハランにおけるカメラ・トラッピングプロジェクトは、公園内における絶滅危惧 IA 類(CR)の種の生息を確認するとともに、先住民や公園レンジャー、NGO スタッフ、ツアーオペレーターを巻き込んで、これらの協力のもと聖なる山々を保護することを目的としている。ストーリー・テリングや聖なる山々へのトレッキングを通じて、旅行客だけでなく現地の若者を教育し、彼らにこの地に残るアニミズムの遺産を学習させることができる。また、民俗学関連の聞き取り調査により、現状を把握できるほか、これらの土地の価値に関する世界的な意識を高めることにもつながる。

政策と法律

先住民には、魚を釣ったり、非木材森林産品を収穫したり、野生のブタや野鶏などの絶滅が危惧されていない種を狩猟したりすることが法律で認められている。センザンコウのような保護種を狩猟する習慣はなかったが、ベトナムの市場で高く売れるため、一部の人々の間ではお金を稼ぐという誘惑が過剰に膨らんでいる。VNPは、世界銀行の資金提供により保護関連法令を実施することができた2004年から2008年は適切に保護されていた。しかし、カンボジア政府が公園内における貴重な鉱物の採掘許可を発表したことから、資金提供は中断された。その結果、広範囲にわたって伐採、密漁が横行し、侵食が進んでいる。現在、公園のおよそ3分の1が事業者によって所有されているが、現在、一時停止措置がとられている。

協働

これまで、この地ではさまざまな当事者による連携はあまり行われていなかった。外部の人間への土地売却や不 法譲渡などにともなって、各村落の社会機構が崩れ始めている。カンボジアは、世界で最も政治腐敗が深刻な国 のひとつに挙げられる。こうした事実にも関わらず、NGO 団体 Habitat ID やいくつかの大学がこの地域で活動して いることから希望はあるが、まだまだやらなければならないことは山積みである。

保全ツール

この地域の自然を保全することは、伝統的な自然に配慮した暮らし方を補強することである。「アニミズムに則った エコツーリズム」は、ストーリー・テリングやトレッキングツアーなどの取組みに共通する中心的な考え方である。また、伝統や公園内の重要な自然地物の研究・文書化によって、この土地に残存する価値を政策立案者をはじめと する外部の人々に知らせることができる。現在は、民俗学関連の聞き取り調査によって文化の文書化が進められ ている。間もなく、希少種や局地的に絶滅した種が現存するなどといった地域の自然の価値に関する主張を検証 するための動体検知型カメラによるトラッピングが開始される。

結果

この地域については、非常に多くの学術的出版物が発表されている。加えて、これまでの取組みから信頼性の高

い情報提供者と解釈者のネットワークが広い範囲に確立されている。こうした人々は VNP 緩衝地帯の多くの村落を訪れ、現在ではその伝統に精通している。したがって、この地域の権利を守るための次の重要な提唱者となって、決定権を握る関係者を説得することもできるだろう。間もなく、Habitat ID からこの地の神話と精霊伝説に関する本が発表され、この地域の村に配布される予定である。長い取組みの結果、ようやく、自主的なカメラトラッププロジェクトが始まろうとしている。

高地に住むブノン族 (Bunong) の Nach Norb 氏:

"ブノンの民は、森林を愛していて、森林を保護したいと思っています。私たちの伝統的な信仰は、森林にとって望ましいものです。私たちが森林を敬えば、森林は私たちが必要とするものすべてを与えてくれます。あらゆるものを。しかし、私たちが森林を敬わなければ、森林は死に、私たちは皆、健康でいられなくなります。"

- 出典「Called Away by a Mountain Spirit (2013, Dr. Cicero Books, p. 87)」 Gregory McCann 著

資料(一部)

- Baird, Ian G. "Identities and Space: The Geographies of Religious Change amongst the Brao in Northeastern Cambodia." Anthropos 104 2009: 457-468" 2009.
- "Controlling the Margins: Nature Conservation and State Power in Northeastern Cambodia." Development and Dominion: Indigenous Peoples of Cambodia, Vietnam and Laos. Frederic Bourdier (ed.) White Lotus Press: Bangkok. 2009.
- Bourdier, Frederic. Ratanakiri: The Mountain of Precious Stones. 2006
- "When the Margins Turn One's Step to an Object of Desire." in Living on the Margins. Center for Khmer Studies: Phnom Penh. 2009
- Development and Dominion. White Lotus Press: Bangkok. 2009.
- Buckley, Ralf. "Parks and Tourism" in Ecotourism and Sustainable Tourism: New Perspectives and Studies.
 Apple Academic Press: New York. 2011.
- Davis, Wade. perf. Dreams of Endangered Cultures. TED. Monterrey, 2007. Presentation.
- De Soto, Hernando. The Mystery of Capital. Black Swan: London. 2000
- Hammer, Peter J."Development as Tragedy: The Asian Development Bank and Indigenous Peoples in Cambodia" in Living on the Margins. Center for Khmer Studies: Phnom Penh. 2009.
- Ironside, Jeremy."Development—In Whose Name?" in Living on the Margins. Center for Khmer Studies: Phnom Penh. 2009
- McCann, Gregory. Called Away by a Mountain Spirit. Dr. Cicero Books: New York. 2013.
- "Bioregions and Spirit Places: Taking up Jim Dodge's Long-Lost Suggestion." The Trumpeter 27.3 (2011): 10-26.
- White, Joanna. "The Indigenous Highlanders of the Northeast: An Uncertain Future." in Ethnic Groups in Cambodia. Ed. Hean Sokham. Phnom Penh: Center for Advanced Study. 2009.
- Global Witness. "Rubber Barons"
- HabitatID: http://habitatid.org/

問い合わせ先(著者):

- Dr. Gregory McCann: greg.mccann1@gmail.com -長庚大学(台湾)
- Dr. Hsu, Yi-Chung: ychsu@mail.ndhu.edu.tw -国立東華大学(台湾)

インド: ソリガ族コミュニティによるカルナタカの野生生物 保護区内の自然の聖地のマッピング

■ インド・ソリガ族コミュニティによるカルナタカの野生生物保護区内の自然の聖地のマッピング



THIS PHOTO IS DIFFRERENT FROM ONE ON THE WEBSITE

GPS を使った、インド、ビリギリ・ランガスワミ寺院野生生物保護区の森林の中にある自然の文化的聖地のマッピング計画を話し合うソリガ族の人々。自然の聖地を記した地形シートを使って、各民族集団の境界を特定。その後、現地に赴き、自然の聖地の境界を確認した。(出典: Sushmita Mandal)

保護区の概要

カルナタカ州チャマラジャナガラ(Chamarajanagara)の南東端の山岳地帯に、面積 540 km2 のビリギリ・ランガスワミ寺院野生生物保護区(Biligiri Rangaswamy Temple Wildlife Sanctuary、BRTWS)がある。ビリギリとは、「白い丘」を意味し、一年の大半この丘陵を覆っている白い霧、もしくはランガスワミ神の寺院が建立されている中心的な丘の白い岩面から名付けられた。この神は、ヴィシュヌ神が休んでいる姿(resting form)である。ヴィシュヌ神は、ビリギリランガン丘陵の森林を司る神として崇拝されている。BRTWS が保護地域として指定されたために、この地に古くから居住するソリガ族に、ある地点への立ち入りや狩猟、植生の焼却の禁止などの制約がもたらされた。これらの地域の自然の聖地は景観の中で独立した要素として捉えられることが多いが、ソリガ族は、古くからこれらが互いに関連しあう土地の文化的・生態学的モザイクを形成していると認識し、これを保護してきた。

生態と生物多様性

BRTWS 保護区は、灌木、乾燥・湿潤落葉林、常緑林、生育の止まった熱帯山岳林(Shola)、高地草原などさまざまな植生で構成され、これらすべてがさまざまな植物を助けている。こうした森林は、西ガーツ生物多様性ホットスポットから東ガーツへの重要な野生生物回廊となっており、アジアゾウ(*Elephas maximus*)の南インド最大の生息分布地を支えている。

状態:絶滅危惧

脅威

さまざまな関係者によって、この地域の自然に対する脅威がもたらされている。政府関係者は、ソリガ族の伝統的な狩猟、焼却、非木材森林産品の収穫の仕組みが現地の生物多様性に対する脅威であると捉え、森林居住者を保護地域外に移転させた。しかし、状況は変わりつつある。ソリガ族は、自分たちの行動は、古くからの伝統に則って、現地の生物多様性の価値を支えてきたと考えている。1974年に法律によってこうした伝統的な生活スタイルが禁じられてから、ランタナなどの侵略種やスグリの木に半寄生する種が広く分布し、これらによって地域の文化的価値、保全価値が脅かされ続けている。ソリガ族は、自生種が絶滅の危機に瀕しているのは、自生種の食糧となる競争力の弱い自生種が侵略種の被害を受けているからだと捉えている。さらに、彼らの伝統的な生活スタイルを安全に維持するのは森林の生態バランスであるとも考えている。BRTWSの管理者は、人間の反応が森林に及ぼす影響にはほとんど注意を払わないため、ソリガ族と周辺の自然の密接なつながりは脆弱になり、周辺地域や彼らの自然の聖地に関するソリガの伝統知識は崩壊しつつある。

ビジョン

ソリガ族の文化地理学の口述歴史と空間的可視化によって、BRTWS の管理者に情報がもたらされるとともに、よりよいガバナンスの実現が可能となる。ソリガの長老たちが繰り返してきたように、自然の聖地の使用、所有、管理によって、先住文化の存続が保証されるたけでなく、生物多様性、そしてソリガの景観の一部である水源が保護される。これらの考えが森林権認知法と一体化することによって、政策決定者の連携を改善する機会がもたらされる。

行動

コミュニティメンバーによって会合が開催され、農業や林業、宗教的な目的のための聖地の利用など、文化的な慣習の理解と文書化について話し合いが行われた。結果、数名はソリガ族の聖地を地図にすることを好ましく思わなかったが、彼らにとって重要な土地を示す地図が作られることとなった。

政策と法

1974 年に BRTWS が指定された後新たに導入された規制に基づく自然の聖地へのアクセス制限などにより、ソリガ族の伝統的慣習の存続はますます困難になった。2006 年の最高裁の決定に従って、保護区および自然公園の中での非木材森林産品の収集はほぼ全面禁止された。これによって、ソリガ族は伝統的な生活を続けていくことができなくなった。興味深いことに、特に生態系にメリットがある場合、先住民の所有地に対する権利保護に政府は最善を尽くすと述べている森林権認知法がこの同じ年に署名されている。近年行われた評価では、同法の内容がにわか作りであったこと、その実施が不十分だっただけでなく、一部の民族コミュニティの地位まで弱めていることが明らかとなった。

管理者

ソリガ族はこれらの森林地に数世紀にわたって居住してきた先住民である。ソリガは「竹から」という意味で、竹筒から生まれたカラヤ(Karraya)の子孫だという主張を表している。非常につながりの強い社会的グループで、異なるソリガの族間での異族結婚を奨励している。古くから、狩猟と焼畑農業を行ってきたほか、さまざまな非木材森林産品を収集して自給自足している。ソリガ族の宇宙論は、自然界とつながったもので、聖地(Yelles)は、5つの要素で構成される。長老たちが5要素とするのは「デバル(Devaru)(神、太陽、光)」、「マラマ(Marama)(母、女神、火に関連)、「ヴェール(Veeru)(悪魔)」、「カルグディ(Kallugudi)(墓石、風に関連)」、「アビ(abbi)(春/小川、水

に関連)」である。ソリガ族にとっては、「ヴェール」の役割が非常に重要であり、これを恐れ、尊敬している。女性はヴェールが住むと考えられている場所には立ち入ることができない。通常、これらの土地は、コミュニティの境界外にあり、人間の使用や攪乱から保護されている。

"火を燃やす慣習がある我々森林の先住民は、生物多様性を守ってきたのではないか?いわゆる文明化した都会の住民がどのような貢献をしてきたのか?"-ソリガ族の一人(匿名)

連携

この地域では、科学者、ソリガ族の長老、さまざまなソリガ族コミュニティの住民が、インドの NGO 団体 Ashoka Trust の支援のもと連携している。森林権認知法は最近国によって整備された政策であるが、これによって、森林関連の政府機関とのより密接な連携の機会が創出される可能性がある。

保全ツール

カウンターマッピングはひとつの効果的なツールである。この地域の詳細な地図はあるが、それらにはソリガ族にとって重要な地は記されていない。コミュニティ会合において、地理情報システム(GIS)技術を使って現地の聖地と伝統的価値が地図に記された。これらの地図は、その後、この地域の住民と政策立案者に配られ、今や無視できないものになっている。さらに、ソリガ族がこの地域の生命を脅かしているのではなく支えているという見解は、資源モニタリングと持続可能な収穫慣習という学術的観点から支持されている。

結果

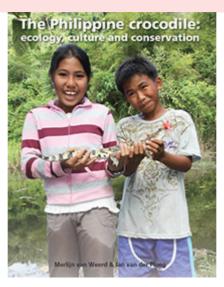
ソリガ族は、政府機関が作成した地図に自分たちの関心が表示されていないと感じており、自分たちの集団アイデンティティと土地に対する権利を示す自分たちの地図を作った。現在、この地図は、政府による地図作成過程で取り残された聖地の文化遺産と重要な役割を伝え、これを広める強力なツールとして使われている。また、これらの自然の聖地と周辺地域に関する文化知識・慣習の回復にも役立っている。

- インド国森林権法 www.forestrightsact.com
- Sushmita Mandal, Nitin D. Rai and Madegowda, C. (2010). Culture, Conservation and Co-management: Strengthening Soliga Stake in Biodiversity Conservation in Biligiri Rangaswamy Temple Wildlife Sanctuary, India. pp. 261-271. In Verschuuren B., Wild R., McNeely JA. and Oviedo G. (eds) "Sacred Natural Sites: Conserving Nature and Culture" Earthscan, London.
- Dash, T., Kothari, A. (2013). Forest Rights and Conservation in India. pp. 151-174. In, Jonas, H., Subramanian, S.M. (eds.), The Right to Responsibility: Resisting and Engaging Development, Conservation, and the Law in Asia. Natural Justice and United Nations University-Institute of Advanced Studies, Malaysia.
- Ashoka Trust for Research in the Ecology and the Environment: www.atree.org

フィリピン:シエラマドレ山脈北部のフィリピンワニ「ワニを敬えば、ワニに敬われる」

■ フィリピン:シエラマドレ山脈北部のフィリピンワニ

状態:絶滅危惧 IA 類 (CR)



フィリピンワニ: 生態、文化、保全 (The Philippine crocodile: ecology, culture and conservation) (van Weerd, M. & J. van der Ploeg, 2012. Mabuwaya Foundation)

保護地の概要

北シエラマドレ国立公園は、フィリピンの北島の東海岸に位置する。シエラマドレの先住民カリンガ(Kalinga)は、森林の辺境で移動耕作を行っている。彼らは長い間、フィリピンワニ(*Crocodylus mindorensis*)と平和に共存してきた。カリンガ族はフィリピンワニを自分たちの祖先の化身と信じ、爬虫類を文化の中心に置いている。近代化の波が押し寄せる中で、伝統的な慣習・価値が急速に変化し、(その大部分が意図的ではないが)文化的な価値が脅威に曝されたため、この地域のワニが保全されることとなった。

生態と生物多様性

北シエラマドレは、熱帯気候で、2月から5月が乾季である。公園内には、*C. porosus* と固有種の *C. mindorensis* が生息する。鳥類は200種を超え、その中には固有種のフィリピンワシ(*Pithecophaga jefferi*)、フィリピンワシミミズク(*Bubo phillipensis*)、ルソンカオグロサイチョウ(*Penelopides manillae*)、フィリピンマメカワセミ(*Ceyx melanurus*) も含まれる。

脅威

フィリピンワニにとって主な脅威は、狩猟と生息地の消失である。ワニの皮は、国際市場で大きな利益を得られる製品である。また、人口増加によって、生態系が全般的に劣化している。沼地や池は、田んぼに転換されている。マングローブ林は薪や人工林に転換するために伐採され、河岸の侵食や沈泥が起こり、河川は農薬やゴミで汚染されている。

管理者

カリンガ族を遅れている、古臭いと感じている社会の主流層に嘲られ、彼らは自分たちの先祖から受け継いだ習慣や祭礼について語るのをためらう。先祖代々受け継がれてきた土地に住むカリンガ族は一般的にワニを自分たちの先祖と捉えている。彼らの文化では、ワニを殺したり、侮辱したりするとワニが復讐し、病に罹るという。カリンガ族は、現地の祭と祈祷儀式の間、先祖にワニの形の餅を捧げる。川を渡るときは、これよりも小さい捧げものを捧げる。ブゲヤン(Bugeyan)と呼ばれる伝統治療師は、ワニを操ることができ、トランス状態ではワニになることさえできると信じられている。キリスト教の普及により、ほとんどのカリンガ族の人々が、自分たちの伝統的な価値・慣習を放棄している。現地の環境にまだ敬意を持っているとしても、先祖代々受け継がれてきた土地の大部分の所有権はすでに他者に移っている。

"ワニを敬えば、ワニに敬われる。"

協力

政府の保護資源は乏しく、主にコミュニティが主体となって保護を行っている。マブワヤ財団のイニシアティブの下、 現地政府、イサベラ州立大学、環境天然資源省、現地コミュニティの支援で保護が行われている。

保全ツール

現在行われている調査から、生態系の現状および野生のワニの保護オプションに関する知識が得られる。この地域の家畜は保護区によって保護されている。保護区では、魚類の生息数を減らさないために、釣りが禁止されている。こうした保護区は、フィリピンワニの繁殖地でもある。奨励策として、野生に生息するワニを見つけた村民には、1頭あたり最高 100 ペソが支払われる。

結果

意識向上キャンペーンによって、緩やかではあるがワニに対する考え方と態度が変わり、これに対する敬意と、環境規制に関する知識が高まりつつある。現地コミュニティ住民による保護活動が成功し、ワニの孵化が増えた。過去 10 年間で 109 のフィリピンワニが孵化し、成長し、放流された。貴重な情報の概要をまとめた画期的な書籍「フィリピンワニ: 生態、文化、保護 (The Philippine crocodile: ecology, culture and conservation)」は、将来のワニの保全の支援・普及に寄与するだろう。

ビジョン

現地住民によってワニとの共存は不可能ではないことが実証されている。現地のリーダーが新たな法を施行することによって、従来、ワニとの共存の方法を身に付けていなかった人々にさらに働きかけることができる。フィリピンワニの運命とその生活環境は、先住民から現地住民、さまざまなガバナンスレベルの意思決定者という多くの関係者が関与するテーマとなっている。

"昔は、ワニの背中に乗って川を渡ったものです。"

行動

ワニの保全行動は、主にコミュニティを主体として行われている。2005年から、サンマリアノの人々は、活発にワニの巣の捜索、境界設定、巣の破壊予防のための保護フェンスの設置という活動を行っている。さらに、浅い池を作

り、ワニの生息地を回復している。ここで幼いワニたちは最適な条件の下、成長する。マブワヤ財団のプログラムにより、徐々に野生のワニの数が増えている。

政策と法律

1997 年、フィリピン政府は北シエラマドレ国立公園を宣言した。この地域は UNESCO の世界遺産地候補としても申請されているこの地は、フィリピン国内の優先保護地域の上位 10 位以内に入っている。フィリピンワニは共和国法第 9147 号によって保護されており、これを殺したり、生息地を破壊すると、罰金 100,000 ペソもしくは 6 年間の禁錮刑が科せられる。しかし、この法律は、めったに実施されることはなく、ほとんどの現地住民がこの法律の存在に気付いていない。



サンマリアノのディワデン渓谷の幼いフィリピンワニ

(写真: J. van der Ploeg 2013 年)

- UNESCO Nomination of the Northern Sierra Madre Natural Park and outlying areas inclusive of the buffer zone: whc.unesco.org
- マブワヤ財団 (Mabuwaya Foundation): www.mabuwaya.org
- Van Weerd, M. & J. van der Ploeg. 2012. The Philippine crocodile: ecology, culture and conservation. Cabagan: Mabuwaya Foundation.
- Van der Ploeg, J. 2012. Friendly Crocodiles and Vengeful Ancestors: Conserving the Critically Endangered Philippine Crocodile in Dinang Creek. In Verschuuren, B., Wild, R. 2012. Sacred Natural Sites: Sources of Biocultural Diversity. Langscape Vol 2 pp. 48-53
- Van der Ploeg, J. 2013. Swallowed by a Cayman: Integrating Cultural Values in Phillippine Crocodile Conservation. PhD Thesis, Leiden: Leiden University.

中国雲南省自治区:ダイ族の聖なる丘陵

■ 中国雲南省自治区:ダイ族の聖なる丘陵



住居、田んぼ、農地、聖なる丘陵に茂る自然林で構成される西双版納の景観(写真: Pei Shengji)

保護地域の概要

雲南省の聖なる丘陵の南側に、西双版納タイ族自治州がある。この地は、UNESCOの人間と生物圏保護区として認められている。中国の陸地面積のわずか0.2%にも満たないが、国内で記録されている種のおよそ2割がこの地に生息し、国内で最も生物多様性が豊かな地域である。また、雲南省の民族のうち13民族の居住地であり、その多くが熱帯・亜熱帯の本土地域に住んでいる。近年、経済成長、人口増加による脅威に対抗するために保護区が設立された。

脅威

過去 50 年間に、750 存在した聖なる丘陵林の 9 割において破壊・劣化が進んだ。このひとつの原因は、急速な経済発展と人口増加により土地利用負荷が膨れ上がり、森林がゴムなどの人工林に取って代わったことである。さらに、1980 年代のコミュニティによる管理から、2000 年代には個人による管理へと森林地管理政策が変わり、これによって、所有森林を貸し出すという選択肢が村民の間に生まれた。

すべての木を伐採したら、食べるものは木の皮しかない。森林を破壊したら、未来への道も破壊される。 - 中国雲南省のタイ族の民謡(Wang 1988 年)

状態:絶滅危惧 IB 類 (EN)



聖なる森林の中の奉納物 (写真: Pei Shengji)

管理者

西双版納の人口の約 35%を占めるタイ族は、雲南省最大の民族グループである。彼らは現地の森林から食糧と水を調達している。タイ族は聖なる丘陵(Nong)の一部の森林聖地には神が住むと信じている。こうした森林に生息する動植物は、神や亡くなって森林に向かった先祖の霊魂の仲間である。こうした森林の動植物に暴力に振るったり、これらを脅かしたりすれば、神から罰せられる。一部のコミュニティではこうした行為は厳しく禁止されている。およそ 50 年前まで、これらの森林は現地の村落の神霊的リーダー(Bimo)が治める伝統制度により保護されていた。タイ族は元来、自然界を重要視するアニミズムの伝統に倣い、森林に重きを置く哲学を持っていた。タイ族の考えでは、人間と人間をとりまく物理的環境の関係は 5 つの主な要素、森林、水、土地、食糧、慈悲心で構成され、森林は人間のゆりかごであるとされている。森林から流れてきた水で土地が潤う。食糧は土地から得られる。このように森林は人間の生活を支えている。タイ族にとって、こうした森林は、超自然の領域に属するもののひとつである。

協力

保護区の管理者と現地村落の管理者が、参加型管理アプローチにより共同で管理している。森林聖地に関するコミュニティの規制、伝統的慣習、礼拝活動は、村の利益に基づいて調整・実施されている。

保全ツール

自然の聖地は、近代化のプレッシャーに耐え、現地の文化と伝統信仰制度に深く織り込まれている。木を1本切ると20~40米ドルの罰金が科せられる。より大きな施策として、雲南では自然保護区、緩衝地帯、生物回廊が生物多様な土地を保全する主な戦略とされている。自然の聖地の管理者は、法的に保護されている保護地ネットワークへの自然の聖地の統合を継続して呼び掛けている。

ビジョン

将来、劣化した森林聖地が回復され、聖なる丘陵として改めて神聖化される可能性があるが、こうした土地を西双版納の保護地域を結ぶ森林回廊に統合することが推奨される。森林聖地の社会的価値、保全価値の認識を高める政策が必要である。これによって、先般、広東省で行われたように保護規制の設立が促されるだろう。この地域をさらに開発するにあたっては、伝統知識を利用すれば、環境に配慮したガバナンスを大きく促すことができる。

行動

森林聖地の消失は顕著であるが、西双版納では伝統文化が復活し、残存森林の中で受け継がれている。毎年8月と11月に行われる礼拝儀式には、村民全員が参加し、食糧、鶏、豚が捧げられている。さらに、先住民だけでなく外部の支援者も、この地域を自然保護区とすることを支持している。

政策と法律

自然の聖地は法によって認められていない。もし何らかの規制変更があったのであれば、それが過去 10 年の森林劣化を促したといえる。複数の保護種が生息している場合も少なくないので、生物多様性ホットスポットの森林として認識される可能性もあり、実際にこうして認められる森林も出てきている。

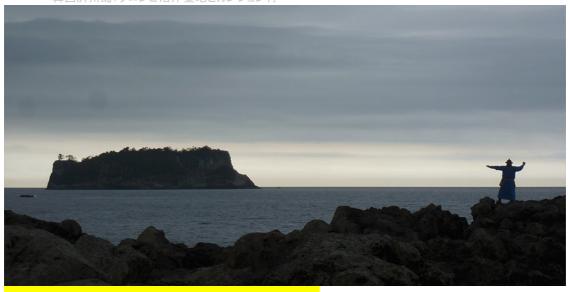
結果

保護区内の4村の住民へのインタビューによると、過去 20 年間に森林聖地で木の伐採や狩猟、過剰収穫が行われたことはない。これは、コミュニティが参加した保護区内の森林聖地の管理が効果的で成功していることを示している。複数の保護区の設立は、雲南の自然の聖地保護に向けた大きな前進である。しかし、更なる保護が望ましい。

- Shengji, P., (2010) The Road to the Future? The Biocultural Values of the Holy Hill forests of Yunan Province, China, in Verschuuren, Wild, McNeely, Oviedo (2010) Sacred Natural Sites: Conserving Nature and Culture, Earth Scan, London.
- Pei S.J., 2006: Biodiversity in the Sacred Forests of Xishuangbanna Biosphere Reserve, China, Published in 'UNESCO 2006 (Lee and Schaaf). Proceedings of Tokyo Symposium: Conserving Cultural and Biological Diversity, The Role of Sacred Natural Sites and Cultural Landscapes, UNESCO, Paris.
- Pei S.J. 1993: Managing for Biological Diversity in Temple Yards and Holy Hills: The Traditional Practices of The Xishuangbannan Dai Community, Southwest China, in Hamilton, L.S. (ed.) Ethics, Religion and Biodiversity,, The White Horse Press. Cambridge UK.
- The Centre for Biodiversity and Indigenous Knowledge (CBIK) at www.cbik.org
- Zeng, L. (2012) Cultural transformation and ecological sustainability among the dai people in Xishuangbanna, available from: www.sustainablechina.info

韓国済州島: クロンビ沿岸聖地とカンジョン村

■ 韓国済州島:クロンビ沿岸聖地とカンジョン村



THIS PHOTO IS DIFFERENT FROM ONE OF THE WEBSITE

Gongcheol Jeong 氏(1960~2013 年)は、シンバン(Shimbang)と呼ばれる済州島のシャーマン。大学での演劇活動を通じた文化運動に参加。1995 年には、伝統的な済州のシャーマン儀式を司った。以降、劇場や祭りにおいてさまざまな済州島の伝統儀式を行うとともに、人々のためにシャーマンとして生活した。済州 Keungut 保護委員会のメンバーとしても活躍。

保護地域の概要

カンジョン(Gangjeon)村は、韓国済州島の南の海岸に位置し、祈りの木や井戸、沿岸岩など古来の聖地に囲まれている。クロンビ(Guriumbi)は、1.2 kmの多孔質の安山岩などで成る岩層沿岸で、現在はその大部分で海軍基地開発が進んでいる。この地域全域は、何世代にもわたって、祈りと儀式、特に豊漁を祝う儀式に使われてきた。海軍基地建設地の隣、クロンビの南東端には、過去数十年間、毎年行われてきた現地の儀式に使われる神社がある。この地は、現在、村とその文化を海軍基地から守るための国際抗議キャンペーンの舞台となっている。

"シンバン(Shimbang)と呼ばれるシャーマンが chogamje 儀式を行うために、済州の 18,000 の神・女神を聖地に招きます。シャーマンが神の領域への扉を開き、儀式を行う聖地を浄化します。それから神を聖地に招き入れ、着席させます。その後、シンバンが村民の福利とカンジョン救済を神に祈ります。" - Hong Sunyoung:済州島ポション Tamnaguk Ipchun Gutnori 祭研究者・専門家

脅威

クロンビは、聖地の境界における海軍基地建設による深刻な脅威に曝されている。海軍基地建設が終了すれば、カンジョン村周辺にある多くの村も生活スタイルの変化による圧力に曝される。クロンビの聖地における儀式は伝統的に一年サイクルで行われてきたが、ここ数年は、海軍基地の建設作業のために行われていない。海軍基地は、沿岸の UNESCO 人間と生物圏保護区の一部と、絶滅の危機にあるサンゴ礁、カニ、カエル、エビおよびミナミハンドウイルカ(Tursiops aduncus)が生息する世界最大級の軟質サンゴ礁の一部と重なる(Ellis 他 2012 年)。

管理者

韓国では数千年にわたって、伝統的な宗教儀式において踊りが大きな位置を占め、あらゆる年齢の男女が数日間、昼夜を問わずに踊るグット(Gut)として知られる儀式が行われてきた。グットのタイプはその目的によって異なるが、主なものは、家内円満、死者の霊魂の別世界への旅を助けること、そして現地コミュニティの繁栄を祈るものである。近代化に伴い、グットが行われる機会は大幅に減った。政府はシャーマンたちを制度上軽んじ、迷信深く、無教養という印象を植え付けている。聖地において歌と踊りで儀式の進行を司るのはシャーマンである。儀式を司るシャーマンたちは、15 日間の崇高な儀式であるシングット(Shin Gut)を経てシャーマンになる。他の多くの村民もグットに参加し、儀式の場所を浄化し準備を整え、音楽を提供し、捧げものをするという具体的な役割を果たす。

ビジョン

Moetpuriの寺などのような聖地は、カンジョン村周辺の環境と切り離せない。これらは、村民やこうした特別な場所の世話をするシャーマンの社会・文化生活に欠かせない要素となっている。村を脅かしている海軍基地開発は、祖先との関係を維持するために使われてきた自然の聖地に対しても脅威である。大部分の村民が、海軍基地建設が中止・撤退となり、村に以前の平和が戻り、その文化と自然がもう一度繁栄することを願っている。

状態: 絶滅危惧 IB 類 (EN)



写真: Bas Verschuuren, 2012 年

"Yowangmaji は海を治めると信じられている竜王 Yowang を歓迎する儀式です。Yowangmaji の中の儀式である Yowangjilchim は、Yowang とカンジョン村を守って海で命を落とした死者のために道を開く儀式です。彼らを儀式の場に迎えた後、シンバンシャーマンは村民の福利とカンジョン村救済のための祈りを捧げます。"

- Hong Sunyoung: 済州島ポション Tamnaguk Ipchun Gutnori 祭り研究者・専門家



写真: Bas Verschuuren, 2012 年

連携

現地住民は、国内外の支持者と手を取って、カンジョン村での海軍基地に反対する運動「Save Jeju Now」を行っている。自然の聖地の保護は、現地の管理者と自然の聖地に関心のある村民、シャーマンに委ねられている。管理者と「Save Jeju Now」行動委員会は、海軍基地反対を通じて、より大きな目標である「カンジョン村の保護」の実現に向けて協力している。儀式の活性化・継続に関する支援も Keungut 保護委員会のほか、いくつかの研究機関、大学によって行われている。

行動

「Safe Jeju Now」行動委員会は継続的に、韓国・米国両政府という巨大組織が画策する海軍基地建設に対する反対活動を行っている。2012 年 9 月 5 日、カンジョン村の村民の神霊的福利を高めるために、サリム (Sallim) と呼ばれるカンジョン村を救うための火の儀式が Moetpuri の寺で開催された。また、2012 年 9 月に開かれた IUCN 世界保全会議を訪れていた海外の自然保護専門家、シャーマン、神霊的リーダーの一群がクロンビとカンジョン村周囲の自然の聖地で儀式を行った。村周辺の自然の聖地は、社会的、神霊的に村のコミュニティの生活の重要な一部であり、コミュニティの社会、信仰の存続のための戦いにおいても重要な要素となる。

保全ツール

カンジョン村周囲の自然の聖地は、村民と、これを祈りと儀式に使うシャーマンには知られているが、公式には登録されていない。一部の聖地には若い世代があまり訪れず、コミュニティの生活の中で自然の聖地の役割を確立する必要性が高まっているという認識が広がっている。現地の禁忌と自然資源の保護と利用に関する規則策定においては、聖なる木や泉などの自然の聖地は配慮される。

政策と法律

文化財庁(CHA)傘下の国立文化遺産研究所など、文化的行政に関わるいくつかの政府機関が一部の聖地の管理に関与している。しかし、CHA は海軍基地建設を支持しており、カンジョン村の再三の申立にも関わらず、建設地の一部では青銅器時代の遺物の発掘作業が未だ続いている。海軍基地開発地近隣の海洋環境の一部及び開発地の一部は、国際合意に基づいて UNESCO 人間と生物圏保護区指定されている。

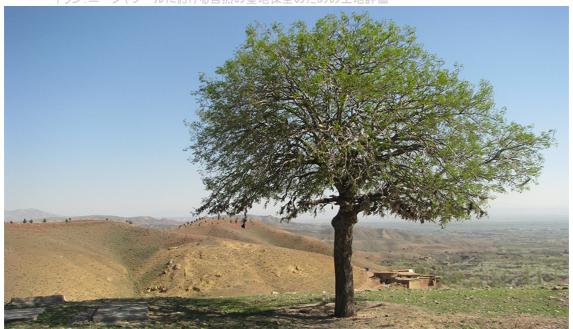
結果

海軍基地建設からカンジョン村を救う取組みにおいて、カンジョン村周辺の自然の聖地は、神霊的にコミュニティに大きく貢献する。済州島における文化・環境運動だけではなく、韓国本土や諸外国からもこの取組みに対する支援がもたらされている。これらの文化・環境運動を受けて、UNESCO や UNHCR などの国際機関がカンジョン村とその自然の聖地のための戦いに注目している。

- 「Save Jeju」エマージェンシーコミッティー: http://savejejunow.org/
- 「Safe Juju」ニューズレター: http://savejejunow.org/newsletter/
- IUCN Motion 181 "Protection of the People, Nature, Culture and Heritage of Gangjeong Village"
- Ellis, AS., Muzik, K., Cha, I., Yun, S., Bae, B., Kim An, L. (2012) Independent Environmental Impact Assessment (EIA) of Coral Communities Surrounding the Intended Site of the Gangjeong Naval Base (先行研究分析・成果含む)
- IUCN UNESCO "自然の聖地:保護地域管理者向けガイドライン" (Wild and McLeod)(韓国語版)

イラン: ニーシャブールにおける自然の聖地保全のため の土地評価

■ イラン:ニーシャブールにおける自然の聖地保全のための土地評価



イランのホラーサーン・ラザヴィ州ニーシャブール、ハルヴの Tapeh-e- Hajghareh - Hajghareh 丘陵と祈りの木 Derakht-e- Arezoo。この丘陵と木は住民によって保護されている。かつて信心深い女性がその敵から逃げるために、丘陵を駆け上がったところ、丘陵が裂け、彼女を飲み込んだと信じられている。現地住民は願いを込めて、一切れの布を木に結び付ける。(出典: Maryam Kabiri Hendi, 2011 年)

保護地の概要

ニーシャブールは、イラン北東部の町である。その大部分は丘陵と山に囲まれた広大な草原である。この町には、聖なる木や泉、岩石、庭園といったさまざまな自然の聖地がある。また、この地域にはいくつかの固有動植物が生息し、保護地域や滝、泉、川、山の頂きなど観賞価値のある地物などのエコツーリズムの目的地がある。亜乾燥から乾燥地帯に属し、年間降雨量は平均300mmである。

脅威

現地コミュニティに保護されているが、都市化、人口増加、インフラ開発、観光によってこの土地の将来が脅かされている。

状態:保護されている

管理者

現地住民は自然の地物を敬っている。これは自然の地物が彼らの信仰に根付いているからである。例えば、ニーシャブールの Qadamgah は、神霊的価値が認められているペルシャ庭園である。この庭園は、邸宅と木、プールと小川で構成されるが、邸宅の壁の一面には2つの足跡がついた黒い石が埋め込まれている。この足跡は、シーア派の第8のイマーム(ムハメドの子孫と考えられる男性の精神的リーダーで、人間を導くよう神に指名された者)のものと信じられている。Qadamgah という語は、足跡という意味であり、この物語にちなんでいる。



Qadamah 庭園の聖なる泉 (出典: Maryam Kabiri Hendi, 2011 年)

聖地としての Qadamgah の歴史は、イスラム前史にさかのぼる。当初の目的はわからないが、歴史的にササン朝の王シャープール・カスラ(Shahpour Kasra)、そしてイマン・アリ(Imam Ali)とイマン・レザ(Imam Reza)に関連があるとされている。紀元前 921 年、イマン・レザはメディナからマルヴに帰る途中、この公園で足を止めた。彼が沐浴をしたいと思った瞬間、地面から泉が湧き出た。以降、この泉は神聖視され、この水には治癒力があると信じられている。

イランでは、日蔭をもたらすこと、そしてその大きい緑色の姿形から、プラタナス(*Plantanus sp.*)を古くから神聖と捉え、数世紀にわたって一部のプラタナスを積極的に保護してきた。イラン全域に樹齢数世紀に及ぶプラタナスがある。一部の木には伝説と信仰が生まれ、人々はこれに近寄ることを避けるようになった。ニーシャブールの村の樹齢が古いプラタナスの枝を折った男は家族を失ったと信じられており、現地住民はこの木を保護している。

現地住民は、まだ法的に保護されていない知名度の低い聖地を保護している。このような土地の価値は、若い世代に伝えられ、これまで数世紀にわたって行われてきたようにコミュニティの中で宗教的儀式や慣習が行われている。こうして、次の世代が聖地の保護を学んでいく。

ビジョン

公式な管理計画があるものの、こうした土地は現地の人々によって管理される傾向がある。現地で短期的な措置を取り入れているケースもある。例えば、祈りの木の周囲に公園を整備し、観光客向けのサービスを開発するなど、さまざまな計画が実行されている。

行動

現地住民と宗教的制度は、歴史ある慣習を重んじている。文化遺産・手工芸・観光局の現地事務所は、樹齢の古い樹木を国の自然遺物として登録している。国の自然遺物は比較的小さく、興味深く、独特で、例外的で、型破りで他に類を見ない動植物の現象であり、科学的、歴史的、自然上、意義が大きいため、各地域では、自然遺物の持続可能な非商業的利用を確保するための保護措置を導入している。

さらに、イラン森林・山脈・流域管理団体の監督のもと、樹齢の古い樹木のインベントリ作成と保全のための国家計画も策定されている。近年、Maryam Kabiri が行った調査結果も、自然保全に関して、これらの聖地がもつ神霊的価値の重要性に対する注意を促している。

政策と法律

これまで、イランの法令において自然の聖地への言及がなされたことはない。一部の自然の聖地は、保護地域または国の遺産として指定されているため、公式に保護されている。その他、国の自然遺物として具体的に登録されているものもある。文化遺産と環境の管轄当局は、主に、希少な動植物または比類ない土地構造や景観、樹齢の古い樹木の保護の要請と適切な境界の指定を通じて、自然遺物の保護に関与する。

連携

この地の一部の聖地は、寄贈財産・慈善局(モスクや寺院のような寄贈財産や聖地の責任機関)と現地住民の評議委員会の監督下にある。文化遺産・手工芸・観光局は、歴史的遺物と国の自然遺物の登録・管理の責任機関である。

例えば Qadamgah は、歴史的遺物として登録されているが、イラン寄贈財産・慈善局と現地の評議委員会の監督下にも置かれている。 Qadamgah のように、土地に文化的価値および神霊的価値の双方がある場合、これらの組織は協力して当該地の保全・管理を行う。

保全ツール

保全基準が整備されており、これらの基準に基づいて、優先的に保護が必要なニーシャブールの土地の地図が 作成されている。さらに、神霊的価値を考慮した国の自然遺物に関する政策課題の計画策定と基準・指標開発の 第一歩に寄与するであろういくつかの提言が策定されている。

結果

自然の聖地は、生態文化の多様性の一部として、現地の信仰と価値に基づき、数世紀にわたって保護されてきた。 現在、これらの土地は、さまざまな理由から脅威に曝されている。自然の聖地を存続するには、法的保護によって 現行策を支える必要がある。共通の基準・政策を以て自然と文化を統合し、法的保護を実現すれば、この目的の ために大きく前進することができる。Kabiri Hendi (2011)は、ニーシャブールの自然の聖地の保全基準を定めている。

- Bahar, M. (1995) From myth to history. Cheshmeh Publication, Tehran, Iran.
- Daneshdoost, J. (1992) Persian Garden. Asar Journal, Vol.12: 48-52.
- Kabiri Hendi, M. (2011) The land evaluation for conservation of natural sites with spiritual values, a case study of Neyshabur Township. (テヘラン大学 MSC 論文)
- Taheri, A. (2009) Neyshabur Tourism Guide. Abarshahr, Mashhad, Iran.
- Pakdaman, B (2005) Qadamgah Garden Complex, Amagazine, issue7:86-93.

キルギスタン: 自然の聖地の複合体ニルディ・アタ峡谷

■ キルギスタン: 自然の聖地の複合体ニルディ・アタ(Nvldy-Ata)峡谷



頂上から眺めるニルディ・アタの景観

保護地の概要

ニルディ・アタは、キルギスタン北部のタラス州 Ozgorush 村 Echkilüü 山峡谷の岩に囲まれた場所に位置する。峡谷全体が聖地の複合体につながっている。大きな平面の岩の西側の円錐型の洞穴(直径1メートル未満)から水が溢れ、滝(40メートル弱)を下って東に向かい、峡谷から流れ出る。峡谷の北側の滝の下には、神聖な水が岩壁を滴り落ちる山の洞窟がある。管理者はこれを邸宅と呼ぶ。中には、巡礼者と管理者が座るためのマットと調理器具、大きな釜に最適な3つの火床がある。これがニルディ・アタの中心、聖なるオルド(Ordo)である。ニルディ・アタには 22 の聖地があり、すべて Chong-Tuyuk と Kichi-Tuyuk のふもとの Echkilüü 山中にある。

状態:絶滅危惧

脅威

恐らく気候変動のために、井戸の水位と湧水が減少している。広大で、柵がないために、峡谷では羊飼いが動物を引き連れ回し、小川を汚している。神霊的領域と先住文化はさまざまな商業活動、さまざまな宗教による深刻な 圧力に曝されている。例えば、聖地崇拝は罪とするイスラム教は、聖地訪問を禁じ、こうした場所を破壊しようとしてきた。

ビジョン

キルギス人は、自分たちが宇宙、そして身の回りの自然と一体であると捉えている。空、植物、水は、自然の基礎である。伝統的施術者は、人は自然から切り離すことができないとしている。自然と結びついたとき、人は自然によって治癒される。聖地の潜在的治癒力の利用については、さまざまな意見があり、一部の訪問者は、「意志と信念を持って訪れれば効果がある」という。人と土地が密接につながっていると、ポジティブな成果がもたらされることが多い。土地につながりを感じ、土地を理解している人々は、聖地の保護の方法についても、一般市民を対象とした意識向上、法的認知の獲得、土地を清潔にし繁栄を保つといった共通のビジョンを有している。

行動

2004 年、Aigine 文化研究センターがクリステンセン基金の資金支援により古代の巡礼伝統の研究を始めた。それから2年半の間に、同センターはキルギスタンのタラス州内の258の聖地を特定し、数百人の聖地巡礼者にインタビューを行い、儀式を観察し、非常に多くの聖地の生物多様性を調査した。

政策と法律

Aigine の優先事項のひとつは、聖地の法的保護の整備である。専門家と伝統知識の継承者によると、キルギスタンの聖地における行動規則および聖地の文化的・生態学的重要性の認識が主な課題である。当初から、Aigine はこれらの法律を整備するために、あらゆる関係組織の代表を含むバランスのとれたチーム形成を目指してきた。キルギスタンの聖地のほとんどが美しさ、環境の清潔さという点において、さまざまであり、これらを人の集まる休憩地、神霊的観光地に変えることは、大きな可能性を含んでいる。

管理者

Jenish Kudakeev 氏は、Aigine 文化研究センターがタラス州で協力しているおよそ 150 名の管理者の一人である。 彼は Shai'yks として分類される管理者グループに属する。Shai'yks は、聖地の世話をし、巡礼者をガイドし、儀式の進行役を務める。一規則として、Shai'yks には聖地の歴史と特別な地物について精通していることが要求される。 また伝統治療を行う能力も有している。Jenish Kudakeev 氏は、峡谷の外では普通の人間であるが、峡谷の中に入ると、人々を治療したり、生活の問題解決を手伝ったり、他にはない情報を得たりなどといった特殊な能力を持つと信じられている。

連携

ニルディ・アタ峡谷の保全と普及の手綱をとっている Aigine 文化研究センターは、文化・生物多様性、宗教、神霊性、民話・教育の専門性およびこれらに対する関心を持っている国際機関だけでなく、タラス州立大学や現地の管理者とも協力している。

保全ツール

2006 年、Aigine 文化研究センターは、ニルディ・アタのいくつかの聖地を塀で囲み、適切な行動規則を書いた標識を入口に吊り下げた。「Blessed Nyldy-Ata」というニルディ・アタの概要、歴史、訪問者の声をキルギス語でまとめた本も出版している。2008 年には、ニルディ・アタ峡谷にトイレを設置した。さらに Jenish Kudakeev 氏を聖地の保全に関するさまざまなワークショップやセミナー、会議に招いている。現地では、現在、同氏その他の現地住民がガイドとなり、聖地巡礼の規則を訪問者に説明している。

結果

2 年に及ぶ参加型研究の主な成果は、書籍「キルギスタンにおけるマザル (Mazar) 信仰: タラスにおける儀式と信仰者 (Mazar Worship in Kyrgyzstan: Rituals and Practitioners in Talas)」にまとめられている。この研究を通じて、Aigine 文化研究センターは、多数の聖地で構成されるニルディ・アタの保護、普及、保全に取組んだ。その結果、この峡谷がより多くの人の知るところとなり、それぞれの神霊的疑問に対する答えを見つけるためにこの地を訪れる人が増えた。こうして、この地の歴史は次世代に受け継がれている。

- Aitpeva G. (ed) 2009. Sacred sites of Issyk-Kul: spiritual powers, pilgrimage, and art. Aigine. Bishkek.
- Cholponai U. 2012 In Search of Sacredness: Pilgrimage Practices in Kyrgyzstan. In: Verschuuren, B.,
 Wild., R., (Eds). Sacred Natural Sites, Sources of Biocultural Diversity, Langscape volume 2, issue 11. pp
 68 71, http://sacrednaturalsites.org/items/terralingua-langscape-volume-2-issue-11/より入手可
- Webster J (2012) IREX, Pilgrimage and Shrines in Kyrgyzstan and Tajikistan. IREX, Washington.http://www.irex.net/sites/default/files/Webster_J%20Scholar%20Research%20Brief%202011-2012_0.pdf
- www.aigine.kg
- www.traditionalknowledge.org
- www.christensenfund.org

インド:マハラシュトラ州西ガーツの森林聖地の再生保全

■ インド:マハラシュトラ州西ガーツの森林聖地の再生保全



インド、マハラシュトラ州西ガーツのサイル(Sayle)村の聖なる森には改装された寺院がある(写真: Archana Godbole.)

保護地の概要

インドのマハラシュトラ州西ガーツの北部は、環境が豊かな地域で、世界的な生物多様性ホットスポットである。この地の豊かな生物多様性は、同じく豊かな現地の伝統の多様性に補完されている。Sahaydri-Konkan のほぼすべての村には、森林聖地が少なくとも1つ以上ある。これらは数ヘクタールから数百ヘクタールまでさまざまな規模だが、それぞれ数百年の歴史を持ち、今日では、比較的介入が少ない自然地の断片ネットワークとして多くの動植物種が生息する保護区となっている。

状態: 絶滅危惧

脅威

森林聖地に対する脅威は、主に文化の変容と国際化によるものである。小さい森林聖地は、しばしば、開発作業を妨げる小さく重要性の低い森林として捉えられる。そのために、多くの森林聖地が破壊され、人工の寺院だけが保護されている。こうした森林が伐採され、侵食された理由には、道路建設、放牧、ダムや運河建設、都市化などが挙げられる。ある森林を改変または伐採するという決定は、欧米の影響が大きくなり、信仰が薄れつつある近隣の村によって下されることが多い。こうした風潮はこの地域全域に広がりつつある。

ビジョン

この地では、現地の管理者と他地域の関係者による森林聖地の適切な共同管理という形態からメリットが得られると思われる。これを実現する最も有望な方法は、文化規範を再確立し、管理者や現地住民、伝統的なガバナンス主体の権限を強くすることである。異なる当事者間に頑強な協力関係を創出するには、長期的な取り組みが重要であり、関連プロセスの継続的な促進および継続的な資金支援が必要である。これらは、次世代に森林聖地とその生物文化上の重要性を伝える効果的な方法である。

行動

応用環境研究財団(AERF)は、各村落の住民関与による森林聖地の長期管理の規模拡大・複製に取り組んだ。 現地住民の意識向上、管理インセンティブの整備を通じて伝統的な自然へのアプローチの再生を試み、各ブロック・各地区の関係者をまとめるのに成功した。

政策と法律

森林の法的所有権は、現在、州の歳入部が所有している。管理規則が異なるため、この地の森林聖地の保護には、森林保護のための法制度と同じ制度を適用することはできない。一部の森林聖地では、特定の非木材森林産品の限定的採取が許可されている。祖先が定めた規則・規制は文書化されておらず、目先のメリットのために歪められることも時にある。

管理者

森林聖地などの伝統的な保護慣習は、マハラシュトラ州西ガーツ北部の3地区の景観にとって重要な要素である。 森林の大部分は、自分たちの聖地を開発することなく、土地に住み続けることが可能な村民が所有している。森林 聖地の管理(宗教的機能と保護を含む)は、村の長老グループが監督・監視する。こうした場所は文化的にも重要 で、コミュニティの祭のほとんどが森林聖地内の寺院で執り行われる。一部の森林は、埋葬地や火葬地としても機 能し、また、幽霊や神の住むところとされているものもある。インド国内の他の地域と同様、住民は、水を除き、こ れらの森林の資源を一切利用しない。

連携

AERF は、15 年間にわたって西ガーツ北部の森林聖地保全に取り組んできた。Sangameshwar 地区では、森林聖地の伝統を復活させ、その長期的な保全のための計画策定・実施に現地住民を参加させることに成功した。

保全ツール

共同管理は重要な出発点の一つであり、当事者間に共通の理解を促すことができる。関係者会合の開催によって、さまざまなグループが森林聖地に熱心に興味を抱いた。メディアは総意形成と環境問題に関する意識向上において重要な役割を果たすが、より多くの森林聖地に関する話題を取り上げることもできるだろう。AERF は、先人から伝わる伝統の復活を目指して、参加型の取組みを通じて、現地コミュニティに働きかけている。現地に伝わる伝統神話や、踊り、歌、儀式を使って、村民の間に宇宙観の共通理解を創出した。森林聖地の維持管理を支援するために必要な場合には、こうした宇宙観を回復した。さらに、状況の重大さを明らかにするために生物多様性インベントリを作成する予定である。

- "村の福利のために森林聖地の資源を利用する許可申請に対する決定は、通常、寺院の中で行われます。".
- 応用環境研究財団ディレクターArchana Godbole

- Godbole, Sarnaik, Punde, (2010) Culture-based conservation of sacred groves: Experiences from the north Western Ghats, India, in Verschuuren, Wild, McNeely and Oviedo, Sacred Natural Sites: Conserving Nature and Culture, Earth Scan, London.
- インド、プネ応用環境研究財団 (Applied Environmental Research Foundation) www.aerfindia.org